



▲小児科前待合にある遊戯スペース

国保中央病院は、平成5年に4町（川西町・三宅町・田原本町・広陵町）の一部事務組合により公立病院として開設されました。「医療の質を高めることにより、地域住民の皆様の健康保持と増進に寄与し、住民の皆様信頼され、愛される心温かな病院を目指します。」を基本理念として、住民の皆さんのニーズに合ったサービスを目指して日々努力してまいりました。



▲壁紙が新しくなり、明るくなった外来待合

この度、壁の汚れや椅子の破損などの古くなった施設設備の修繕と、より良いサービスの提供のため、1階外来待合周辺の改装工事と椅子の入れ替えを行い、新しい国保中央病院としてリニューアルしました。

各科を受診される患者さんのニーズにあった椅子を配置し、全体が明るくなるよう壁紙をきれいに行いましたので、快適に待っていただけるようになりました。

工事期間中は、皆様のご理解・ご協力をいただき本当にありがとうございました。今後も住民の皆さんに最良の治療を提供し、地域医療に貢献してまいりますのでよろしく願います。

町長日記

ご当地ナンバー「飛鳥」

Vol. 41

ここに来て急に「ご当地ナンバー」の話が出てきた。ご承知のように「ご当地ナンバー」は、独自の地名を定められるよう新たに開始された制度で、これにより平成18年10月10日以降、新たな地名を表示して払い出された番号標のことである。その後も全国各地から「ご当地ナンバー」追加の強い要望があり、今回追加が決まった。

この追加に手を挙げたのが「飛鳥」のようである。明日香村、橿原市、商工団体などが中心となり、「ご当地ナンバー」の取得を目指しておられる。確かに「飛ぶ鳥の」は明日香を導く枕詞である。飛鳥時代、日本の中心であった一帯を盛り上げ、地域振興、観光振興に繋げていくという観点では良い思いつきだと思ふ。

しかし、あくまでそれは明日香地域としては良いアイデアだが、これが田原本もどうかと言われるとちよつと違う気がする。ところが5月末、橿原市長、斑鳩町長、吉野町長の連名で「ご当地ナンバー「飛鳥」の実現に向けた推進協議会の案内が届いた。斑鳩町は斑鳩、吉野町は吉野山だろう。また6月3日には別の市長から電話があり田原本町長は、当初「ご当地ナンバー」に積極的だったのに消極的



田原本町長 寺田典弘

に変わったのかと聞かれた。ちよつと待つてもらいたい。私は誰からも、どの団体からも「ご当地ナンバー」の話は聞いていない。確かに事務的には、橿原市の部長がおいでいただき、田原本町の参事が対応してくれた。当然、私にも報告はあった。しかし、誰からもこの件については聞いていないし頼まれてはいない。噂が一人歩きしている。

私は誰からもお願いがなかったからと言って、意固地になつていくわけではない。田原本は飛鳥ではない。もっと古い弥生からの歴史がある。それに何人かの皆様にお伺いしたが十人いらつしやれば十人とも、それはどうかという返事である。

他地域の富士山、会津、伊豆のように一つにまとまれる総称があれば良い。しかしこの地域で、歴史の観点を切り口にするのは難しい。奈良にはあまりにも多くの歴史がありすぎる。